

## 土木学会 鋼構造委員会「鋼橋の更新・改築事例検討小委員会」委員の公募

土木学会鋼構造委員会では、以下の研究小委員会を新たに設置いたします。この小委員会にご参加いただける方を公募いたします。本委員会の目的および内容は以下のとおりです。

### <委員会名称>

鋼橋の更新・改築事例検討小委員会

委員長 大塚 敬三：首都高速道路株式会社

### <背景と目的>

鋼橋の大規模な修繕や更新に関しては、2013年6月～2016年5月の間に『鋼橋の大規模修繕・大規模改築に関する調査研究小委員会（水口 和之委員長）』が設置され、わが国において大規模修繕、大規模更新が開始されることに先立ち、それまでに行われた鋼橋の大規模な構造改良工事、床版取替工事、架け替え工事などの事例を収集・整理し、橋梁の更新計画や設計に携わる技術者の参考となる情報が、鋼構造シリーズ26『鋼橋の大規模修繕・大規模更新－解説と事例－』として、2016年7月にとりまとめられている。

前回の小委員会活動は、NEXCO3社、首都高速道路株式会社、阪神高速道路株式会社において、それぞれ、大規模更新のあり方に関する検討委員会が設置され、橋梁の架け替えや大規模な部材の取替を視野に入れた本格的な予防保全への検討が進められ、各社の検討委員会報告書が公表されるとともに、各社の大規模更新、大規模修繕が事業化された時期であり、鋼構造シリーズ26では、それらの先駆的な事例として、国内外の大規模な構造改良工事などがとりまとめられている。

それ以降、高速道路会社では、事業化された大規模更新、大規模修繕が具体的に進められるとともに、それら以外にも、首都高速道路では、ラケット型橋脚のダブルデッキ構造の4車線化拡幅工事などの改築事業も実施されている。これらの既設橋の更新、修繕、改築などの工事は、一般に既設構造物等を供用しながらの施工となり、構造や工法に制約を受けることや施工プロセスが複雑となることが多い。また、各施工ステップでの安全性や使用性を下部構造への影響も含め確保しなければならないため、高度な設計技術や判断が要求されるなど、高度で多面的な技術が必要とされる。

今回の小委員会では、前回報告書に掲載された事例以外を中心に収集・整理し、新たな事例について、前回と同様に、工法選択の考え方、設計の考え方、具体的な施工法、制約条件を克服するために用いられた技術や工夫などをガイドラインとしてまとめることを目的とする。

### <活動期間>

2020年10月～2022年9月（2年間、予定）※旅費、交通費は支給されません。

### <公募締切日>

2020年9月末日

### <応募方法>

本委員会に参加を希望される方は、(1)氏名、(2)年齢、(3)所属、(4)連絡先（住所、電話番号、FAX番

号、E-mail アドレス)、(5)特に興味のある検討事項、等について、下記の応募先まで E-mail にてご連絡ください（書式任意）。応募の際のメールタイトルを「鋼橋の更新・改築事例検討小委員会参加希望」とご記入ください。なお、委員数は全体で20名程度を予定しています。応募者数によってはご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご承知おきください。特に若手技術者の応募も歓迎いたします。

<応募先および問合せ先>

志賀 弘明（幹事長）： J F E エンジニアリング株式会社  
社会インフラ本部 橋梁事業部 改築プロジェクト部  
〒230-8611 神奈川県横浜市鶴見区末広町2丁目1番地  
電話：045-505-8911 FAX：045-505-6563  
E-mail：shiga-hiroaki@jfe-eng.co.jp

以上